

【講師のプロフィール】

丹保 憲仁(たんぼ のりひと)

1933 年札幌出身。1955 年北海道大学工学部土木工学科卒業。1957 年同大学大学院土木工学専攻、修士修了。1969 年同大学衛生工学科教授。1993 年同大学工学部長。1995 年同大学総長。2001 年放送大学長、日本学術会議会員を務め現在に至る。土木学会会長、土木学会環境システム委員会委員長、水文・水資源学会副会長、国際水協会会長、文部科学省大学設置・法人審議会会長、大学基準協会会長などの要職を歴任。専門：水環境工学、都市水工学。「人口減少下の社会資本整備－拡大から縮小への処方箋－」（丸善 2002）、「水文大循環と地域水代謝」（技報堂 2003）など著書多数。

須田 春海(すだ はるみ)

東京都政調査会勤務を経て、市民運動全国センター世話人（1980 年～現在）。環境省・全国温暖化防止活動推進センター長、法政大学大学院客員教授、太陽光発電所ネットワーク代表などを歴任。現在、市民立法機構共同事務局長/環境自治体会議事務局長/東京自治研究センター副理事長/日本インターネット新聞 JANJAN 編集員などを兼務。編著「政策提案型市民運動のすすめ」「環境自治体の創造」「市民立法入門」「市民自治体－社会発展の可能性」など。

設楽 清和(したら きよかず)

1956 年生まれ。上智大学外国語学部フランス語学科卒業後、新潟で農業に従事。その後、環境と人間のあり方を研究対象とし、ジョージア大学大学院で人類学を専攻。帰国後、神奈川県藤野でパーマカルチャー（オーストラリアで生まれた考え方で、持続可能な環境を作り出すためのデザイン体系）の日本型モデルを確立するために、センターを設立。現在、パーマカルチャー・センター・ジャパン事務局長。様々なワークショップを通じ、身の回りのあらゆる動物・植物・建築・エネルギー・コミュニケーションなど多種多様な要素を活かす生活スタイルのデザインを提案している。

高橋 克法(たかはし かつのり)

1957 年 12 月 7 日栃木県高根沢町に生まれる。いて座の O 型。大学を卒業後、ジャーナリストを志すが夢破れ、勉強ができて飯が食べられるという理由で国会議員秘書となる。1996 年栃木県議会議員。1998 年 8 月現職町長の急逝により町長選に出馬。高根沢町長に就任、今日に至る。趣味は炭焼き。

和田 喜彦(わだ よしひこ)

長野県生れ。1985 年横浜市立大学文理学部国際関係課程卒。（財）国際開発センター勤務等を経て、1990 年よりカナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学大学院コミュニティー地域計画学研究科修士課程に留学。同大学「健康的で持続可能なコミュニティーに関するタスクフォース」勤務（研究助手）等を経て、1999 年同研究科博士課程修了（PhD）。2000 年より札幌大学経済学部助教授。2003 年より同志社大学経済学部助教授。専門はエコロジー経済学。

池戸 通徳（いけど みちのり）

1982 年 4 月、飯田市役所採用。水道業務、戸籍住民記録、市立病院建設、会計、企画、都市整備に従事し、2004 年 4 月から環境課勤務。社）日本ネイチャーゲーム協会公認初級指導員、NPO 法人自然体験活動推進協議会「CONE」会員、飯田市の体験教育旅行「天竜川ラフティング」ガイド、日本野外生活推進協会スウェーデン幼児環境教育「森のムツレ教室」「クニユタナ教室」リーダー、NPO 法人自然環境復元協会「環境再生医」（教育啓発部門・中級）、長野県認定「信州ふるさと案内人」。NGO ナチュラルステップに共感し環境活動を展開、NPO 法人ジャパンフォーサステイナビリティ会員、NPO 法人南信州おひさま進歩理事、長野県地球温暖化防止活動推進員、環境省「環境カウンセラー」（市民部門）。

寺西 俊一(てらにし しゅんいち)

1951 年生まれ。京都大学経済学部卒業。一橋大学大学院経済学研究科教授。専門は環境経済学・環境政策論。都留重人氏や宮本憲一氏等の影響を受け、環境経済学を専攻。アジア・太平洋環境会議功労賞受賞。『環境と公害』誌編集委員会幹事、日本環境会議理事・事務局長、環境経済・政策学会常務理事、日本経済政策学会理事、環境法・政策学会理事等を歴任。『地球環境問題の政治経済学』（東洋経済新報社）『新しい環境経済政策』（同前）『アジア環境白書』シリーズ（同前）『環境共同体としての日中韓』（集英社新書）『地球環境保全への途』（有斐閣選書）『地域再生の環境学』（東大出版会）等、監修・編著書多数。